SYBASE
An SAP Company

リリース・ノート

Sybase IQ 15.4

Linux

ドキュメント ID： DC00597-01-1540-01
改訂： 2011 年 11 月
Copyright © 2011 by Sybase, Inc. All rights reserved.
このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎりは、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。
このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。
Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (http://www.sybase.com/detail?id=1011207) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。
このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。
Java および Java 関連の商標は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。
Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。
このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。
Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.
Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

製品の概要 1
製品の互換性 1
ネットワーク・クライアントおよび ODBC キット 1
インストールとアップグレード 3
以前のバージョンからの問題の解決策 5
サブキャパシティ・ライセンス 6
データベースのアップグレード 7
Sybase IQ とその他の Sybase 製品 8
既知の問題 11
制限事項 11
インストールと設定に関する既知の問題 13
Sybase IQ の動作に関する既知の問題 18
以前のバージョンからの Sybase IQ の動作に関する既知の問題 19
マルチプレックス環境の既知の問題 22
Interactive SQL の既知の問題 23
Sybase Central の既知の問題 25
以前のバージョンからの Sybase Central の既知の問題 26
追加の説明や情報の入手 29
サポート・センタ 29
サポート・センタに提出する情報 29
チェックリスト： サポート・センタに提出する情報 31
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード 32
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認 33
MySybase プロファイルの作成 33

Sybase IQ ニュース・グループ 33
Sybase IQ ユーザのグループ 33
アクセシビリティ機能 34

製品の概要

このリリース・ノートには、Sybase® IQ の最新情報が記載されています。 より新しいバージョンが Web で提供されていることがあります。

互換性のあるプラットフォーム、オペレーティング・システムの設定、最小パッチ・レベルについては、『インストールおよび設定ガイド』を参照してください。

このバージョンの新機能と動作変更については、『新機能の概要 Sybase IQ』を参照してください。

アクセシビリティについては、このリリース・ガイドの「アクセシビリティ機能」を参照してください。

製品の互換性

Sybase IQ と他の製品の互換性について説明します。

以下の Sybase 製品は、Sybase IQ のこのバージョンで動作が確認されています。

- jConnect™ for JDBC™ 7.0
- Sybase IQ InfoPrimer 15.3
- Sybase Control Center (SCC) 3.2.4

以下の Sybase 製品は、Sybase IQ のこのバージョンで CIS 機能のバックエンドとして機能することが確認されています。

- SQL Anywhere® 12.0.1
- Adaptive Server® Enterprise 15.5

オンラインで提供されている最新の動作確認情報にアクセスする手順については、「Sybase Product and Component Certifications」を参照してください。

ネットワーク・クライアントおよび ODBC キット

Sybase ダウンロード・サイトでは、開発用の Sybase IQ ネットワーク・クライアントおよび ODBC キットを利用できます。ネットワーク・クライアントは、Sybase IQ のこのバージョンでサポートされているプラットフォームごとに提供されています。Windows と Linux の 32 ビット・クライアントも利用可能です。

Sybase のダウンロード・サイトは http://www.sybase.com/downloads です。

現在、Sybase IQ 15.2 の 32 ビット ODBC キットを使用している場合、Sybase IQ15.4 の 32 ビット ODBC キットにアップグレードする必要はありません。

インストールとアップグレード

インストール・ガイドで省略されたか間違っていた、または特に重要なインストールとアップグレードの最新情報について説明します。

Sybase IQ のインストールとアップグレードの詳細については、『インストールおよび設定ガイド』を参照してください。

最新バージョンの Sybase IQ を実行する前に、「制限事項」の最新要件を確認してください。この項では、このリリースの最新の重要なインストール情報と移行情報を説明しています。

Sybase は、ソフトウェアをインストールする前に、これらのコンポーネントのソフトウェア更新について、オンライン・サポート Web サイトを確認することを強くおすすめします。ソフトウェア更新 (ESD または EBF) がリリースされている場合は、この製品の出荷後に行われたバグ修正が含まれています。Sybase IQ をインストールした後で、最新の更新をダウンロードしてインストールする必要があります。詳細については、「Downloading Sybase EBFs and Maintenance Reports」を参照してください。

Sybase IQ15.4 にはライセンスが必要

Sybase IQ15.4 には、Sybase ソフトウェア資産管理 (SySAM: Sybase Software Asset Management) のライセンス管理メカニズムが使用されています。システム管理者は、SySAM を使用してサイトで Sybase 製品を使用できるようにしたり、使用状況をモニタしたりできます。

Sybase IQ には、各製品エディションの個別 SySAM ライセンスと、そのエディションで利用できるオプション機能の個別ライセンスが含まれます。 詳細については、『インストールおよび設定ガイド』の「ソフトウェアのライセンス」を参照してください。

32 ビット Linux でドライバ・ファイルの sajdbc.jar と sajdbc4.jar がインストールされない [CR #691609]

Sybase IQ15.4 は、ドライバ・ファイルの `sajdbc.jar` と `sajdbc4.jar` を 32 ビット Linux システム上にインストールしません。これらのサポート対象ドライバを入手するには、Sybase IQ カスタマ・サポートまでご連絡ください。

インストーラの起動時に相対パスの使用を避ける [CR #691212]

相対パスを使用してインストーラを起動すると、Sybase IQ のインストールに失敗します。 GUI からのインストールでは、ライセンス・ファイル情報の入力を求めるメッセージが表示されないため、インストールを正常に完了できません。

たとえば、コンソールから起動するには次のコマンド・ラインを使用します。

```
Installer files directory :  /system1/users/jones/installdir
$SYBASE dir : /system1/users/jones/IQ154
```

```
cd $SYBASE
../installdir/setup.bin
```

- **対処方法** – 配置されているディレクトリからインストーラを起動するか、絶対パスを使用します。

Sybase Control Center をカスタム・インストールすると、HTTP、HTTPS、RMI の各プロンプトが省略される [CR #688044]

IQ オプションの Sybase Control Center のみを選択してカスタム・インストールを実行すると、ポート設定パネルが表示されません。

- **対処方法** – デフォルト値を変更する場合は、SCC サービス設定ファイル内のポート・プロパティを手動で更新できます。

  `$SYBASE/SCC-3_2/services/EmbeddedWebContainer/service-config.xml` で、http プロパティと https プロパティを次のように更新します。

  ```
  <set-property property="http.port" value="8282" />
              <set-property property="https.port" value="8283" />
  ```

  `$Sybase/SCC-3_2/services/RMI/service-config.xml` で、RMI ポートを次のように更新します。

  ```
  <set-property property="port" value="9999"/>
  ```

注意： 上記は UNIX の変数とパス名の例です。Windows ユーザはインストール場所を *%SYBASE%* に置き換え、パスの区切り文字のスラッシュ (/) を円記号に変更します。

v3 UDF を使用している Sybase パートナーは、v4 へのアップグレード時にライセンス・キーを指定する必要がある [CR #688135]

Sybase デザイン・パートナーが v3 UDF を使用している場合、ライブラリを v4 にアップグレードすると、Sybase 提供のライセンス・キーを `a_v4_extfn_license_info` の構造で指定しなければ現在の UDF は機能しなくなります。`extfn_get_license_info` メソッドを実装し、このメソッドを通じて有効なキーを返すようにします。v4 API へのアップグレードおよび `extfn_get_license_info` メソッドの追加の詳細については、『ユーザ定義関数ガイド』を参照してください。

SySAM ライセンスのチェックアウト [CR #628594]

以前のリリースでは、Sybase IQ がプロセッサ単位のライセンス・タイプを使用してライセンス供与されている場合に、ライセンス数が起動時に確認されていまし

た。このリリースでは、Sybase IQ は使用できるプロセッサの数を定期的に確認し、プロセッサ数が増加している場合は追加ライセンスのチェックアウトを試みます。追加ライセンスが 30 日以内に提供されない場合、30 日を過ぎると Sybase IQ は停止します。 ライセンスの猶予に関する詳細については、『SySAM ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。

ALTER DATABASE UPGRADE PROCEDURE ON の実行が必要
新しいシステム・テーブルをインストールするには、Sybase IQ15.4 のインストール後に、既存のデータベース上で **ALTER DATABASE UPGRADE PROCEDURE ON** を実行する必要があります。

構文については、『リファレンス：文とオプション』を参照してください。

ASE のリモート・サーバ・クラスの使用 [CR #615420]
サーバ・クラスの asejdbc と aseodbc を使用すると、Sybase IQ から Adaptive Server® Enterprise (ASE) へのコンポーネント統合サービス (CIS: Component Integration Service) コネクティビティを使用できます。 asejdbc サーバ・クラスでは Adaptive Server JDBC™ ドライバを使用し、aseodbc サーバ・クラスでは Adaptive Server ODBC ドライバを使用します。aseodbc サーバ・クラスを使用した CIS コネクティビティは、asejdbc クラスの場合よりもパフォーマンスが向上することが予想されます。 Adaptive Server ODBC ドライバを使用するには、SDK 15.5 ESD #8 を別途インストールする必要があります。SDK 15.5 ESD #8 は、Sybase EBF ダウンロード・サイトからダウンロードできます。

以前のバージョンからの問題の解決策

Sybase IQ には、以前のバージョンに対するリリース後の更新で解決された問題の解決策が含まれています。

Sybase IQ15.4 には、以下のバージョンで解決された問題の解決策が含まれています。

- Sybase IQ 15.1 ESD #3 (マイナー・バージョン #7 - Sybase IQ 15.1 ESD #3.7 以降)
- Sybase IQ 15.2 ESD #1 (マイナー・バージョン #8 - Sybase IQ 15.2 ESD #1.8 以降)
- Sybase IQ 15.2 ESD #2 (マイナー・バージョン #3 - Sybase IQ 15.2 ESD #2.3 以降)

サブキャパシティ・ライセンス

Sybase は、Sybase IQ Enterprise Edition のサブキャパシティ・ライセンス・オプションを提供しています。サブキャパシティ・ライセンスとは、物理マシンで使用可能な CPU の一部に対して Sybase 製品のライセンスを供与することです。

プラットフォームのサポート
サブキャパシティ・ライセンスは、次のプラットフォームでサポートされています。

表 1 : サブキャパシティ・ライセンスのベンダ・サポート

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
HP	nPar	HP IA 11.31	物理パーティション
	vPar		仮想パーティション
	Integrity Virtual Machines と Resource Manager		仮想マシン
	Secure Resource Partitions		OS コンテナ
IBM	LPAR	AIX 6.1	仮想パーティション
	dLPAR		仮想パーティション
SUN	ダイナミック・システム・ドメイン	Solaris 10	物理パーティション
	Solaris コンテナ／ゾーンと Solaris Resource Manager		OS パーティション
INTEL/ AMD	VMware ESX Server[1] ゲスト OS：Windows	VMware ESX Server 3.5、4.0、4.1 ゲスト OS：Windows 2008 R2、Windows 7	仮想マシン
	VMware ESX Server ゲスト OS：Linux	VMware ESX Server 3.5、4.0、4.1 ゲスト OS：RH 5.5、SuSE 11、Sun Solaris x64	仮想マシン

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
	Xen[2]、DomainU：Windows	Windows 2008 R2、Windows 7	仮想マシン
	Xen、DomainU：Linux	RH 5.5、SuSE 11	仮想マシン
	[1] VMware では VMware Workstation と VMware Server は除外 [2] Xen では Sun Solaris x64 は除外		

Sybase サブキャパシティ・ライセンスを有効にする方法
サブキャパシティ・ライセンスを有効にするには、Sybase とサブキャパシティ・ライセンス契約を結ぶ必要があります。サブキャパシティ環境で Sybase IQ を使用する場合、ライセンス・キーの生成手順については、『SySAM クイック・スタート・ガイド』を参照してください。

注意： ライセンス・サーバを最新の状態に維持してください。

インストール・メディアには最新の SySAM ライセンス・サーバのコピーが含まれていますが、Sybase は、SySAM スタンドアロン・ライセンス・サーバのインストール・サイト でライセンス・サーバの更新がないかどうかを定期的に確認することをおすすめします。

データベースのアップグレード

データベースのアップグレードに関する重要な情報について説明します。

Sybase IQ のインストールとアップグレードの詳細については、『インストールおよび設定ガイド』を参照してください。

*asejdbc リモート・データ・アクセス・クラスを使用する 12.7 FPIDX データベースは **iqunload** によって移行される [CR #682589]*
`asejdbc server class` は現在使用されていませんが、`asejdbc` ドライバに基づくリモート・サーバ定義を使用する Sybase IQ 12.7 データベースは、こうした定義を **iqunload** ツールによって Sybase IQ 15.4 に移行します。 ただし、このリモート・サーバを実行時に使用するには、サーバで **cis_option** を設定する必要があります。

Sybase Central プラグインの互換性 [CR #667451]
IQ 15.3 ではセキュリティの修正が含まれているため、Sybase Central™ と Sybase Central エージェントの Sybase IQ 15.4 プラグインは、15.2 ESD #3 より前の Sybase

IQ のバージョンと互換性がありません。15.4 プラグインは、15.2 ESD #3 以降 (15.4 を含みます) の Sybase IQ サーバでのみ使用できます。12.x サーバまたは 15.2 ESD #3 より前のサーバとの接続には使用できません。詳細については、『新機能の概要』を参照してください。

デフォルト・パスワード値の変更
デフォルト・パスワードは、小文字の `sql` です。

Sybase IQ とその他の Sybase 製品

Sybase IQ と一緒に他の Sybase 製品をインストールする場合に注意すべき問題点について説明します。

CR#	説明
689566	• **ASE 15.0.3 ESD#4 が、Sybase IQ 15.4 によってインストールされた Open Client ソフトウェアのバージョンを上書きする** – Sybase IQ 15.4 は、OCS 15.5 ESD#5 をインストールします。ASE 15.0.3 ESD#4 をインストールすると、"No to All" を選択した場合でも、OCS 15.0 ESD#18 にダウングレードされます。 • **対処方法** – インストールされた旧バージョンの OCS に互換性がない場合は、Sybase IQ 15.4 を再インストールします。
688694	• **Sybase IQ 15.4 を Replication Agent™ 15.2 上にインストールすると SySAM のエラー・メッセージが表示される** – Replication Agent 15.2 の後で Sybase IQ 15.4 をインストールすると、`$SYBASE/log/sysam_server.log` と `$SYBASE/log/sysam_util.log` にエラーが記録されます。 これらのエラーが発生するのは、Replication Agent によってインストールされた `$SYBASE/SYSAM-2_0/bin` ディレクトリ内のライセンス・ファイルに書き込みパーミッションがないためです。 • **対処方法** – `$SYBASE/SYSAM-2_0/bin` ディレクトリでライセンス・ファイルのパーミッションを変更してから、Sybase IQ をインストールします。

CR#	説明

668842	• **START_SCC_SERVER プロパティの応答ファイルの値が正しく設定されない** – GUI インストーラを使用して応答ファイルを作成すると、Start Sybase Control Center コード・ブロック内の値が正しく設定されません。
	• **対処方法** – 次は、上記のエラーを含んだコード・ブロックの例です。
	`#Start Sybase Control Center`
	`#----------`
	`START_SCC_SERVER=¥"¥",¥"No¥" <---- wrong value`
	`START_SCC_SERVER_1=`
	`START_SCC_SERVER_2=No`
	`START_SCC_SERVER_BOOLEAN_1=0`
	`START_SCC_SERVER_BOOLEAN_2=1`
	正しいコード・ブロックは次のようになります。
	`#Start Sybase Control Center`
	`#----------`
	`START_SCC_SERVER=No`
	`START_SCC_SERVER_1=`
	`START_SCC_SERVER_2=No`
	`START_SCC_SERVER_BOOLEAN_1=0`
	`START_SCC_SERVER_BOOLEAN_2=1`
	このエラーを修正するには、`START_SCC_SERVER` 行を `START_SCC_SERVER=No` または `START_SCC_SERVER=Yes` に変更します。

既知の問題

既知の問題、その対処方法、制限について説明します。

問題を探すには、CR (Change Request) 番号を使用します。

注意： 解決済みの問題については Sybase Web サイトで検索できます。[サポート] > [解決済みの問題] を選択するか、http://search.sybase.com/search/simple.do?mode=sc にアクセスします。アーカイブで解決済みの問題を表示するには、MySybase アカウントが必要です。

制限事項

制限に関する情報を考慮して、システムで予期しない結果が生じるのを回避します。

この情報は、特に指定しないかぎり、Sybase IQ の以前のバージョンからアップグレードされている Sybase IQ のこのバージョンのサーバおよびデータベースに適用されます。

Sybase Central プラグインの互換性 [CR #667451]
IQ 15.3 ではセキュリティの修正が含まれているため、Sybase Central™ と Sybase Central エージェントの Sybase IQ 15.4 プラグインは、15.2 ESD #3 より前の Sybase IQ のバージョンと互換性がありません。15.4 プラグインは、15.2 ESD #3 以降 (15.4 を含みます) の Sybase IQ サーバでのみ使用できます。12.x サーバまたは 15.2 ESD #3 より前のサーバとの接続には使用できません。詳細については、『新機能の概要』を参照してください。

データベース名の長さの制限 [CR #365281]
dbbackup ユーティリティは、データベース名を 70 文字にトランケートし、トランケートされた名前でターゲット・ファイルを作成します。Sybase IQ は、セカンダリ・サーバを同期するときに **dbbackup** を使用します。**dbbackup** の制限により、データベース名の長さを 70 文字未満にする必要があります。

DB 領域管理とファイルの配置
DB 領域 (システム、メイン IQ、テンポラリ IQ) にファイル・システム・ファイルを割り付けるときは、そのファイルを、ローカル・エリア・ネットワーク上で共有されているファイル・システムに配置しないでください。これを行うと、I/O パフォーマンスが低下し、ローカル・エリア・ネットワークが過負荷になるなどの

問題が起きるおそれがあります。ネットワーク・ドライブまたは Network File System (NFS) ファイル・システムに IQ DB 領域ファイルを配置しないでください。

競合を避けるために、DB 領域管理は 1 人のデータベース管理者が 1 つの接続で実行することをおすすめします。

RESTORE コマンド内での DB 領域名の指定 [CR #561366]
DB 領域名に `.iq`、`.iqtmp`、`.iqloc` などのファイル拡張子が含まれる場合、**RESTORE** コマンドの **RENAME** 句に名前を指定するときに、DB 領域名を二重引用符で囲む必要があります。次に例を示します。

```
RENAME local1 TO '/work/local1_res.iqloc.iqloc'
DBSPACENAME "local1_res.iqloc"
```

または

```
RENAME "test_prod2.iq" TO '/test/test_prod7.iq'
```

予期しないクエリ結果
一部のまれな状況では、SQL Anywhere と Sybase IQ のセマンティックの違いにより、予期しないクエリ結果が生じることがあります。これらの状況には次のようなものがあります。

- ユーザ定義関数内からクエリが発行される。
- **SELECT** 文に **FROM** 句がない。
- **FROM** 句に、**IN SYSTEM** で作成されたテーブルと **IN SYSTEM** で作成されていないテーブルが含まれる。

上記の状況では、SQL Anywhere と Sybase IQ のわずかなセマンティックの違いが明らかになることがあります。その違いには次のようなものがあります。

- Sybase IQ では `CHAR` と `VARCHAR` を区別し、異なるデータ型として扱いますが、SQL Anywhere では `CHAR` データを `VARCHAR` と同じように扱います。
- 引数を渡すときの **RAND** 関数の動作は、Sybase IQ では決定的ですが、SQL Anywhere では非決定的になります。

インストールと設定に関する既知の問題

Sybase IQ インストールに関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 2 : インストーラの問題

CR#	説明

690606	• **ユーザ・プロセスの最大数に関する RH 6.x のデフォルト設定値が低すぎるために、Sybase IQ サーバを起動できないことがある –** Red Hat 6.x には、Sybase IQ エンジンを起動可能なスレッド数に影響を及ぼす変更点があります。Red Hat 5.x のデフォルトでは、スレッド数の上限が、マシン構成に基づいて動的に設定されます (たとえば、8 コアのシステムの上限数は 256693 に設定されます)。Red Hat 6.x の場合は、この上限数が 1024 にハードコーディングされており、システム・サイズは考慮されません。この変更は特に、コア数あたりの CPU 値が高いシステムと、同一のユーザ・アカウントが複数の IQ サーバを起動するシステムに影響を及ぼします。
	• **対処方法 1 –**
	1. 必要なスレッド数を計算します。単一のユーザによって起動されるサーバごとに、次の式を使用して IQ が割り当てるスレッド数を計算します。
	`numThreads = 60*4 + 50*(numCPUs - 4) + numConnections + 3`
	100 ユーザが使用する 8 コア・システムの場合、*numThreads* はサーバあたり 543 スレッドになります。
	100 ユーザが使用する 64 コア・システムの場合、*numThreads* はサーバあたり 3343 スレッドになります。
	2. `/etc/security/limits.conf` に次の行を追加します。
	`sybase soft nproc  7710`
	`-- 2 servers on the 64-core system plus 1024 default`
	`sybase hard nproc  16384`
	`-- rounded up for extra space`
	Sybase ユーザの代わりに総ユーザ数の上限を設定するには、次の例のように、sybase をアスタリスク (*) に置き換えます。
	`* soft nproc 7710`
	`* hard nproc 16384`
	3. サーバを起動するユーザの `.cshrc` ファイルに次の行を追加します。
	`limit maxproc 7710`
	• **対処方法 2 –** 次のファイル内で、以降で示す行をコメントアウトして動作を Red Hat 5.x に戻します。
	`/etc/security/limits.d/90-nproc.conf`:
	`#*  soft  nproc  1024`

CR#	説明

684311	• **Java スタック・トレースによって RH 6.0 へのインストールに失敗する –** Red Hat Enterprise Linux 6 を使用する場合、Sybase IQ の Java ベースのアプリケーション (Sybase IQ インストーラを含む) をサポートするには、32 ビット互換性ライブラリが必要になります。
	• **対処方法 –** Red Hat Enterprise Linux 6 上に Sybase IQ をインストールするには、次のライブラリが必要です。
	  • `libXext-devel.i686`
	  • `libXtst-devel.i686`
	  上記のライブラリをインストールしないまま、GUI モードで Sybase IQ インストーラを起動すると、例外が発生してインストールに失敗します。

665300	• **インストーラが一部の UNIX 系プラットフォームで応答を停止する –** 一部の UNIX 系オペレーティング・システムで、ネットワーク・リソースが原因となり、インストーラが応答を停止して "syntax error near unexpected token 'fi'" というエラーを返すことがあります。また、**df** コマンドもこの状況で応答を停止します。
	• **対処方法 –**
	  1. 問題が生じている可能性のあるネットワーク・ファイル・システム (NFS：Network File System) マウントを識別します。
	  `strace -e statfs, statfs64 df`
	  2. **umount** コマンドを使用して、識別した NFS マウントをマウント解除します。
	  `umount -l <path>`
	  3. 応答を停止する NFS マウントがなくなるまで、上記の手順を繰り返します。
	  注意： **umount** コマンドでは、root パーミッションが必要です。**umount** によって NFS をマウント解除した場合、マシンの再起動が必要になることがあります。

CR#	説明
664968, 669802	• **IQ インストーラが Red Hat で "Permission denied" エラーを返す** – インストール DVD が自動でマウントされたときに、IQ インストーラが Red Hat で次のエラーを返すことがあります。 `./setup.bin: /bin/sh: bad interpreter: Permission denied` • **対処方法** – インストール・メディアを再マウントし、インストールをもう一度実行します。 **1.** インストール・メディアをマウント解除します。 **2.** 手動で DVD ドライブをマウントします。 次のコマンドのいずれかを使用して、ドライブを再マウントします。 • `mount -t iso9660 /dev/hda /mnt/cdrom` • `mount -o exec /dev/cdrom /media` **3.** 新しくマウントされたディレクトリ `/mnt/cdrom` を使用してインストールを開始します。
655963	• **IQ インストーラが Red Hat で "No filesystem could mount root" エラーを返す** – IBM P6 マシンおよび P7 マシンにインストールする場合、Red Hat 上で IQ インストーラが次のエラーを返すことがあります。 `rhel6 install error: No filesystem could mount root, tried: iso9660` • **対処方法** – http://www.ibm.com/developerworks/forums/thread.jspa?threadID=357314 の手順に従って再インストールします。

CR#	説明

668842	• **応答ファイル内の Start Sybase Control Center ブロックの値が正しくない** – GUI インストーラを使用して、自動インストールまたはサイレント・インストール用の応答ファイルを作成すると、Start Sybase Control Center コード・ブロック内の START_SCC_SERVER プロパティの値が正しく設定されません。
	• **対処方法** – 次は、正しくない START_SCC_SERVER プロパティの例です。
	`#Start Sybase Control Center`
	`#----------`
	`START_SCC_SERVER=¥"¥",¥"No¥" <---- wrong value`
	`START_SCC_SERVER_1=`
	`START_SCC_SERVER_2=No`
	`START_SCC_SERVER_BOOLEAN_1=0`
	`START_SCC_SERVER_BOOLEAN_2=1`
	正しい START_SCC_SERVER プロパティは次のようになります。
	`#Start Sybase Control Center`
	`#----------`
	`START_SCC_SERVER=No`
	`START_SCC_SERVER_1=`
	`START_SCC_SERVER_2=No`
	`START_SCC_SERVER_BOOLEAN_1=0`
	`START_SCC_SERVER_BOOLEAN_2=1`
	このエラーを修正するには、START_SCC_SERVER プロパティを START_SCC_SERVER=No または START_SCC_SERVER=Yes に変更します。

669678	• **アンインストーラが応答を停止する** – インストーラによって `All items were successfully deleted` というメッセージが表示された後、[戻る] ボタンをクリックすると、アンインストーラがハングすることがあります。 • **対処方法** – インストーラがファイルを削除した後は、以前の画面に戻らないようにしてください。[完了] をクリックして、アンインストール・プロセスを完了します。

CR#	説明
641873, 652690, 652696, 652866, 643106	• **Sybase IQ 15.4 を古い Sybase 製品と同じディレクトリにインストールしない** – Sybase IQ 15.4 を古い Sybase 製品と同じディレクトリにインストールすると、これらの製品の一部またはすべてが使用できなくなる可能性があります。Adaptive Server Enterprise 15.5 と Sybase IQ 15.4 のみ、同じ $SYBASE ディレクトリを共有できます。 • **対処方法** – 古い製品で使用しているディレクトリとは異なるディレクトリに Sybase IQ 15.4 をインストールします。

Sybase IQ の動作に関する既知の問題

Sybase IQ の動作に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 3 : Open Client の問題

CR#	説明
662422	• **リモート・クエリで DATETIME カラムを指定すると、パフォーマンスが低下する** – Sybase IQ 15.4 と、Sybase IQ 15.4 に同梱されるデフォルトの Open Client/Server は、リモート・クエリで TDS の `BIGDATETIME` データ型をサポートします。 Sybase IQ サーバが Open Client を使用してリモート・クエリを実行し、IQ/SA リモート・サーバ上の `DATETIME` カラムをフェッチすると、返されるデータ型は `DATETIME` ではなく、`BIGDATETIME` データ型です。これにより、パフォーマンスが低下することがあります。 リモート・サーバが ASE サーバのときは、パフォーマンスが低下しない場合もあります。 `BIGDATETIME` 値が返らないようにするには、次の対処方法を適用します。 • **対処方法** – `BIGDATETIME` 値が返らないようにするには、Open Client と Open Server の構成ファイル `$SYBASE/$SYBASE_OCS/config/ocs.cfg` に次の行を追加します。 `[Sybase IQ]  CS_CAP_RESPONSE = CS_DATA_NOBIGDATETIME` Open Server 15.0、Open Client 15.0、SDK 15.0 の『Open Client Client-Library/C リファレンス・マニュアル』>「Client-Library トピックス」>「実行時設定ファイルの使用」も参照してください。

表 4 : サーバ起動時の問題

CR#	説明

682890	• **Red Hat 6.0 でスレッド/プロセスの数が制限される** – Sybase IQ を起動する際、このユーザ・プロセスが生成するプロセス数が多すぎると、`Resource temporarily unavailable` というメッセージが返される場合があります。
	• **対処方法** –
	1. Sybase IQ を起動するユーザのログイン・プロファイルを変更します。たとえば、bash シェルの場合は次のコマンドを `.bashrc` ファイルに入力します。
	`ulimit -u 32000`
	2. 問題が解決しなければ、より影響力の強い方法を試します。root 権限で、`/etc/security/limits.conf` ファイルを編集して次の行を追加します。
	`sybase -`

663054	• **-iqro 1 フラグを指定してサーバを起動した場合にデータベース・リカバリが失敗する** – Sybase IQ 15.4 の起動コマンドで読み取り専用フラグ **-iqro 1** を指定した場合、アーカイブされた 15.2 データベースをリカバリできません。

以前のバージョンからの Sybase IQ の動作に関する既知の問題

以前のバージョンからの Sybase IQ の動作に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

Red Hat 6 は互換性ライブラリが必要 [CR #686818]

Red Hat 6.0 上への Sybase IQ 15.3 のインストールは、以下に示す必要な 32 ビット互換性ライブラリをインストールしないと、`InvocationTargetException` エラーが発生して失敗します。

- libXext-devel.i686
- libXtst-devel.i686

ビッグ・エンディアン・プラットフォームの PHP バインド・パラメータ [CR #627872]

Sybase IQ 15.2 では、ビッグ・エンディアン・プラットフォームの PHP: Hypertext Preprocessor (PHP) ドライバのバインド・パラメータを初期化してから、`INT` データ型と `BIGINT` データ型の **sasql_stmt_bind_param** を呼び出す必要があります。

次の例は、**sasql_stmt_bind_param** を呼び出す前に適切に初期化された値を示しています。

```
$stmt = sasql_prepare($conn, "insert into testdefault(c1, c2, c3, c5)
values(?,?,?,?)"); #Binding parameters with statement prepared
$c1=22;  $c2=33;  $c3="col3data";  $c5="col5data";
sasql_stmt_bind_param ($stmt,"iiss", $c1, $c2, $c3, $c5); #executing
statement sasql_stmt_execute($stmt);
```

中国語ロケールと日本語ロケールのインストール環境で sp_iqstatus がエラーを返す [CR #622928]

中国語ロケールまたは日本語ロケール用に設定された Sybase IQ サーバで `sp_iqstatus` を実行すると、次のようなエラーが返されます。

```
Could not execute statement. Syntax error near '2010' on line 1
SQLCODE=-131, ODBC 3 State="42000" Line 1, column 1
```

対処方法：

1. 次のコマンドを実行します。
   中国語ロケールの場合：
   ```
   % cd $IQDIR15/res % rm dblgzh_iq11_eucgb.res % rm
   dblgzh_iq11_cp936.res
   ```
   日本語ロケールの場合：
   ```
   % cd $IQDIR15/res % rm dblgja_iq11_eucjis.res % rm
   dblgja_iq11_sjis.res
   ```
2. Sybase IQ を再起動します。

この手順の実行後、`.iqmsg` ファイルと **sp_iqmpxinfo**、**sp_iqstatistics**、**sp_iqstatus** の出力に含まれる一部の文字列が、中国語または日本語ではなく英語になります。

ASE から BIGDATETIME 機能を備えた Sybase IQ への接続 [CR #622007]

バージョン 15.5 GA の Adaptive Server Enterprise サーバでコンポーネント統合サービス (CIS) を使用して、`BIGDATETIME` と `BIGTIME` の機能を備えた Sybase IQ サーバのバージョンに接続すると、CIS を使用して Adaptive Server サーバに送信された日付データ型で次のエラーが発生します。

```
Msg 7225, Level 16, State 4: Line 1: Unknown datatype token 188
'BIGDATETIME NULL' encountered. Exited passthru mode from server
'QA_IQ15_ASECIS'.
```

Sybase IQ はデータを `BIGDATETIME` として送信し、Adaptive Server が適切に変換することに依存しています。`BIGDATETIME` データ型は、Adaptive Server Enterprise バージョン 15.5 ESD #1 の CIS に実装されています。そのため、このエラーは ESD が適用される前の Adaptive Server Enterprise 15.5 で発生します。

対処方法：

各セッションの Sybase IQ で `SET TEMPORARY OPTION RETURN_DATE_TIME_AS_STRING='ON'` 文を実行します。Sybase IQ サーバはすべての日付データを文字列として送信し、Adaptive Server は変換を完了します。こ

の対処方法は、パススルー・モードで Sybase IQ に接続している Adaptive Server Enterprise 15.5 GA 向けです。

この対処方法は、リモート・ストアド・プロシージャの定義にも使用できますが、Sybase IQ から日付データ型を返す Adaptive Server で作成されたプロキシ・テーブルの解決策にはなりません。

dbisql が Linux Red Hat 5.3 上で起動しない [CR #571993]

Interactive SQL ユーティリティ **dbisql** が Linux Red Hat 5.3 で起動できず、次のようなメッセージが発行されます。

```
Error! could not load the Java Virtual machine DLL: /root/users/
user1/050509/shared/JRE- 6_0_7_32BIT/lib/i386/client/libjvm.so
```

対処方法： 次のコマンドを実行します。

```
% cd $IQDIR15/bin32 % dbisql -batch  # creates below % dbisql.sh
```

Linux PowerPC x64 での Sybase IQ 15.x の SELinux ポリシー要件 [CR #571627]

SELinux 対応の **java -version** コマンドを使用するには、selinux-policy-2.4.6-25.e15 以降をインストールする必要があります。ポリシーのバージョンが正しくない場合、次のメッセージが表示されます。

```
Errorloading: /libjvm.so: cannot restore segment prot after reloc:
Permission denied
```

このポリシー要件を満たすにはこの方法が推奨されますが、別の方法として SELinux を無効にすることもできます。

RSA 証明書を作成できない [CR #557702]

createcert ユーティリティがないために、エラー `createcert command not found` が発生して RSA 証明書を作成できません。現在、このユーティリティは、AIX64、LinuxAMD64、Sun64、Win32 の各プラットフォームでのみ使用できます。このユーティリティが必要な場合は、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタに連絡してください。

Sybase IQ から ASE への FORWARD TO の失敗 [CR #539484]

ASEODBC ドライバを使用して Sybase IQ から Adaptive Server Enterprise への **FORWARD TO** コマンドを実行すると、ASA エラー -660 "`The identifier that starts with '<identifier>' is too long. Maximum length is 28`" が発生します。

対処方法：

この問題を防ぐには、サーバ・クラス `aseodbc` またはサーバ・クラス `asejdbc` のいずれかを使用してリモート Adaptive Server Enterprise サーバを作成した後で、

かつ **FORWARD TO** 文を使用し、二重引用符が含まれる SQL 文をリモート・サーバに対して実行する前に、以下のいずれかを実行します。

1. 二重引用符を一重引用符に変更します。
2. 実行する SQL 文の前に、データベース・オプション **SET QUOTED_IDENTIFIER OFF** を含めます。

   ```
   FORWARD TO <remote server name> { SET QUOTED_IDENTIFIER OFF <SQL
   statement> }
   ```

3. 別の **FORWARD TO** 文を使用して `QUOTED_IDENTIFIER` データベース・オプションを **OFF** に設定します。

   ```
   FORWARD TO <remote server name> {  SET QUOTED_IDENTIFIER OFF }
   ```

マルチプレックス環境の既知の問題

マルチプレックス環境に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 5 : マルチプレックスの問題

CR#	説明

611990	• **CREATE TEXT INDEX 発行後にセカンダリ・サーバが緊急シャットダウンする** – 次の場合に、セカンダリ・サーバが緊急シャットダウンします。
	  • 外部ライブラリのロードを無効にする **-sf external_library_full_text** フラグを使用して、セカンダリ・サーバを起動している。
	  • ユーザが、外部ライブラリを使用するテキスト設定を使用するコーディネータで **CREATE TEXT INDEX** 文を発行した。
	  他のすべてのサーバは、DDL を正常にリプレイします。
	• **対処方法** – **-sf external_library_full_text** フラグを使用せずに、マルチプレックスでセカンダリ・ノードを起動します。

557714	• **プロキシ・テーブル作成後にセカンダリ・サーバが緊急シャットダウンする** – ユーザがセカンダリ・サーバの新しいプロキシ・テーブルにアクセスしたときに、タイミングによってはサーバが緊急シャットダウンする場合があります。 • **対処方法** – 新しく作成したプロキシ・テーブルを使用する前に、再接続するか、しばらく待ってから別のトランザクションを起動します。

Interactive SQL の既知の問題

Interactive SQL の既知の問題について説明します。

特定のタスクで特に指定されていないかぎり、**dbisqlc** や **iqisql** ではなく、**dbisql** を使用することをおすすめします。**dbisqlc** はサポートされていますが、**dbisql** のすべての機能が含まれているわけではありません。**dbisqlc** は今後のリリースで廃止される予定です。

表 6 : Interactive SQL の問題

CR#	説明
688917	• [検索] **ボタンによるリモート IQ サーバへの接続** – Interactive SQL の起動時、デフォルトのアクションが [別のコンピューターで稼働しているデータベースに接続] または [別のコンピューターのデータベースを起動して接続] で、[検索] ボタンを使用してサーバを選択する場合、[接続] をクリックするとエラーが発生する可能性があります。 • **対処方法 1** – [ホスト] フィールドに自動入力された値をクリアし、[接続] をクリックします。 • **対処方法 2** – 別のアクションを選択した後、[別のコンピューターで稼働しているデータベースに接続] または [別のコンピューターのデータベースを起動して接続] を選択します。
668398	• **dsedit XKEYSYMDB 環境変数** – 環境変数 `XKEYSYMDB` を **<path to X11>/XKeysymDB** に設定してから、**dsedit** を使用します。 次に csh での例を示します。 `setenv XKEYSYMDB /usr/share/X11/XKeysymDB`
560926, 644210	• **dbisql と dbisqlc のオンライン・ヘルプはありません。** – Interactive SQL (**dbisql**) ユーティリティまたは廃止された Interactive SQL Classic (**dbisqlc**) ユーティリティのオンライン・ヘルプは提供されていません。
該当なし	• **インポート・オプションがサポートされない** – **dbisql** の [データ] メニューの [インポート] オプション (または **dbisqlc** の [コマンド] - [オプション] - [入力フォーマット]) は使用しないでください。このオプションは、IQ データベースの使用時はサポートされません。 データを IQ テーブルにロードするには、**LOAD TABLE** 文または **INSERT** 文を使用します。

CR#	説明
該当なし	• **クワイエット・モードでの出力ファイルの作成 – -q** オプション (クワイエット・モード) を指定して **dbisql** (Interactive SQL) を実行するときに、データ抽出コマンド (主としてオプション `TEMP_EXTRACT_NAME1` を出力ファイルに設定する) がコマンド・ファイルに含まれている場合は、最初に **dbisql** オプションの [複数の結果セットを表示] を永続的にオンに設定する必要があります。 このオプションが設定されていない場合、出力ファイルは作成されません。
該当なし	• **複数の結果セットを表示 –** [複数の結果セットを表示] オプションを設定するには、**dbisql** ウィンドウで [ツール] - [オプション] をクリックし、[Sybase IQ] を選択した後、[結果] タブを選択します。 [処理中の結果] と [複数の結果セットを返す文の場合] の下の [すべての結果セットを表示] を選択します。
該当なし	• **[プラン] タブのクエリ・プラン – dbisql** の [プラン] タブのクエリ・プランは、SQL Anywhere スタイルのクエリ・プランです。 Sybase IQ のクエリ・プランについては、IQ の `.iqmsg` ファイルを参照してください。

該当なし	• **画面ルーチンを初期化できない –** UNIX システムと Linux システムで端末タイプを "dumb" または "unknown" に設定し、**dbisqlc** を起動すると、Sybase IQ はエラーを返します。 次は、上記のエラーの例です。
	`% setenv TERM dumb`
	`% dbisqlc`
	`error at line 1 Unable to initialize screen routines`
	• **対処方法 –** この問題を回避するには、代わりに **dbisql** (Interactive SQL) を実行するか、xterm ウィンドウを使用して UNIX システムと Linux システムで **dbisqlc** を実行します。 たとえば、スクロール・バーが付いている xterm ウィンドウを起動するには、次のように入力します。
	`% xterm -sb`

Sybase Central の既知の問題

Sybase Central の動作に関する既知の問題とその対処方法について説明します。

表 7 : Sybase Central の問題

CR#	説明

687723	• **Adaptive Server Enterprise または Replication Manager プラグインのアンインストール後に Sybase Central を起動できない** – ASE 15.7 または RMP 15.7 を Sybase IQ 15.4 と同じディレクトリにインストールしている場合、RMP または ASE をアンインストールすると、Sybase Central の起動時に次のエラーが返されます。
	`Error: Unable to locate required JAR file.`
	`Missing: $SYBASE/shared/JavaHelp-2_0/jh.jar.`
	• **対処方法 1** – 対象の共有領域をバックアップしてから ASE または RMP をアンインストールし、アンインストール完了後に不足ファイルをリストアします。
	• **対処方法 2** – ASE または RMP をアンインストールしてから、IQ クライアントのみを選択して Sybase IQ を再インストールします。

668606	• **データベース作成ウィザードで IQ Agent の有効なユーザ名とパスワードを指定してもエラーが返される** – Sybase Central のデータベース作成ウィザードは、IQ Agent の有効なユーザ名とパスワードを指定して新しい **iqdemo** データベースを作成すると失敗します。次のエラー・メッセージが返されます。 `sybase.iq.IQAgentConnectionException: Invalid user-name. Please provide agent login credentials in Agent Properties window.` • **対処方法 1** – [IQ サーバの選択] ページで、[SQL スクリプトの作成] オプションの選択を解除します。 • **対処方法 2** – サーバの [Agent のプロパティ] で、新しいデータベースの作成に使用する Agent のユーザ名とパスワードを設定します。

以前のバージョンからの **Sybase Central** の既知の問題

Sybase IQ の以前のバージョンからの Sybase Central の既知の問題とその対処方法について説明します。

トリガ作成ウィザードでユーザ・テーブルが表示されない [CR #631447]

Sybase Central のトリガ作成ウィザードでは、ユーザ・テーブルはリストされません。

対処方法： Interactive SQL (**dbisql**) を使用してトリガを作成します。

Sybase Central のパスワード・フィールドの編集 [CR #625254]

Sybase Central では、データベース作成ウィザードの [接続パラメータ] のステップで、まずパスワード・フィールドから編集しないかぎり、このフィールドを編集することはできません。

対処方法：

- **scjview** スクリプトの LC_ALL 環境変数を LC_ALL=C 以外の値に設定します (推奨)。または、
- [接続パラメータ] 画面で [戻る] または [次へ] をクリックします。

リモート・クライアントが Sybase IQ Agent に接続できない [CR #563823]

リモート・クライアントで実行されている Sybase Central がサーバ・ホストで実行されている Sybase IQ Agent に接続しようとすると、次のエラーが表示されることがあります。

```
“Unable to connect to the IQ Agent on Server host
“<hostname>:<port_number>”
```

この問題の根本原因として、ネットワークの設定によりホスト名が実際の IP アドレスではなく、ループバック IP アドレス 127.0.0.1 に不正確に解決されている可能性が考えられます。コマンド `ping <hostname>` を実行して返される IP アドレスから、問題の原因を確認できます。返された IP アドレスが実際の IP アドレスではなく、127.0.0.1 の場合、ネットワークの設定に問題があります。

この問題を解決するには、ホスト名が実際の IP アドレスとして解決されるように、システム管理者にネットワークの設定変更を依頼してください。UNIX システムでは、ホスト名が実際の IP アドレスとして解決されるように、システム・ファイル `/etc/hosts` を編集できます。

[Selected Columns] オプションを使用したプロキシ・テーブルの作成 [CR #559895]

Sybase Central ウィザードで [**All Columns**] オプションを使用してプロキシ・テーブルを作成すると、プロキシ・テーブルが意図したとおりに作成されます。しかし、

Sybase Central ウィザードの [**Selected Columns**] オプションを使用してプロキシ・テーブルを作成すると、すべてのカラムを選択している場合でも、プロキシ・テーブルにデータが表示されません。

[**All Columns**] オプションを使用してプロキシ・テーブルを作成するか、**dbisql** を使用して選択したカラムだけを含むプロキシ・テーブルを作成します。

Sybase Central の操作の問題 [CR #549750]

Sybase Central におけるデータベース作成ウィザード使用中のリモート・システムのファイル参照時の操作に関する次の問題は、JRE 6.0 に関連しています。対処方法としては、ウィザードを使用してファイルを選択する代わりに、テキスト・フィールドにファイルへの必要なパス名を入力するか、データベースを作成するシステム上で Sybase Central を実行します。

- Windows または Linux で Sybase Central を実行している場合： リモート・システムのファイルを参照中に、新しく作成したディレクトリ内を移動することはできません。
- Windows で Sybase Central を実行している場合： リモート Linux システムのディレクトリをダブルクリックしても、反応はありません。
- Windows または Linux で Sybase Central を実行している場合： リモート Linux システムのファイルの参照中、[**Create New Directory**] ボタンが無効になります。
- Linux で Sybase Central を実行している場合： リモート Windows システムの C: ドライブ内を移動するときに、 [Up] ボタンを何度かクリックすると、C: ドライブの不正確なファイル・リストが表示されます。
- すべてのプラットフォームで Sybase Central を実行している場合：リモート・システムのファイル名の変更は機能しません。変更する新しいファイル名の入力後に [**Enter**] キーを押しても、反応はなく、またエラーが返されることもなく、名前の変更操作が失敗します。
- すべてのプラットフォームで Sybase Central を実行している場合：リモート・システムのファイルとディレクトリをクリックしたり、ダブルクリックしても、予想どおりに機能しません。Sybase Central では、ディレクトリに移動することもあれば、ディレクトリ名を編集できるようになることもあります。ファイルの場合も同様で、ファイルが選択されることもあれば、ファイル名を編集できるようになることもあります。

Linux on POWER での Sybase Central オンライン・ヘルプの起動 [CR #390320]

Linux on POWER で Sybase Central のウィザードまたはユーティリティの [ヘルプ] ボタンを使用すると、ロード中のイメージに "Loading online help" というメッセージが表示されますが、ヘルプが起動せずにこのイメージが開いたままになります。イメージが表示されるウィンドウに [閉じる] アイコンがある場合は (Windows の Exceed 表示など)、これを手動でクローズします。アイコンがない場合は、[Alt] キーを押しながら、[F4] キーを使用します (Solaris CDE 表示など)。

一度初期化されたヘルプ・システムは正しく動作し、その後は、ウィザードまたはユーティリティから問題なく起動できます。

追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、Sybase Product Manuals Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- (http://sybooks.sybase.com/) にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。 この Web サイトには、製品マニュアルの他に、 EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、 Solved Cases、Community Forums/Newsgroups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF 形式のドキュメントを表示または印刷するには、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできる Adobe Acrobat Reader が必要です。

注意： 製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアル Web サイトから入手できることがあります。

サポート・センタ

Sybase 製品に関するサポートを得ることができます。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

サポート・センタに提出する情報

サポート・センタでは問題を解決するために、ご使用の環境についての情報が必要となります。

サポート・センタに問い合わせる前に、**getiqinfo** スクリプトを実行して、可能なかぎり多くの情報を自動的に収集してください。一部の情報を手動で収集することが必要な場合もあります。

次のリストで、アスタリスク (*) は **getiqinfo** によって収集した項目であることを示します。

- Sybase IQ のバージョン (15.4 GA や ESD レベルなど)
- ハードウェアの種類、メモリ容量、CPU の数*
- オペレーティング・システムとバージョン (Microsoft Windows 2008 Service Pack 1 など)*
- オペレーティング・システムのパッチ・レベル
- 使用しているフロントエンド・ツール (Business Objects Crystal Reports など)
- 使用している接続プロトコル (ODBC、JDBC、Tabular Data Stream™ (TDS) など)
- Open Client のバージョン
- 設定タイプ (シングル・ユーザかマルチユーザか)
- (重要) メッセージ・ログ・ファイル*–デフォルトでは、データベース・サーバを起動したディレクトリにある `dbname.iqmsg`
- 問題が発生した日時のスタック・トレース・ファイル (該当する場合)。デフォルトでは、データベース・サーバを起動したディレクトリにある `stktrc-YYYYMMDD-HHMMSS_#.iq*`
- エラーが発生したコマンドまたはクエリ
- クエリ・プラン* (`.iqmsg` ファイルに記録されます)

  クエリ・プランは、**getiqinfo** によって自動的に収集されます。情報を手動で収集する場合は、次のコマンドを入力し、エラーが発生したコマンドを再実行してください。

  ```
  SET TEMPORARY OPTION Query_Plan = 'ON'
  SET TEMPORARY OPTION Query_Detail = 'ON'
  SET TEMPORARY OPTION Query_Plan_As_Html= 'ON'
  SET TEMPORARY OPTION Query_Plan_As_Html_Directory=
  'ON'
  ```

  プランはメッセージ・ログ・ファイルにあります。
  パフォーマンスの問題がある場合は、次のデータベース・オプションを設定してください。

  ```
  SET TEMPORARY OPTION Query_Plan_After_Run = 'ON'
  ```

  これにより、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタでは、クエリ処理のどのステップに時間がかかっているのか判断できます。
- サーバ・ログ
  - UNIX と Linux の場合：`IQ-15_4/logfiles/<servername>.nnnn.stderr` と `IQ-15_4/logfiles/<servername>.nnnn.srvlog*`
  - Windows プラットフォームの場合： `%ALLUSERSPROFILE%SybaseIQ¥logfiles¥ <servername>.nnnn.srvlog*`

    たとえば、Windows 2008 では、サーバ・ログ・ファイルは `C:¥ProgramData¥SybaseIQ¥logfiles` にあります。

- 設定ファイル (デフォルトでは `dbname.cfg`) の起動オプションと接続オプションの設定*
- データベース・オプションの設定と **sa_conn_properties** からの出力* (サーバがまだ動作している場合)
- データベースのスキーマとインデックス
- **sp_iqstatus** と **sp_iqcheckdb** からの出力
- マルチプレックス・データベースでは、各ノード (コーディネータ・ノードとセカンダリ・ノード) で **getiqinfo** を実行します。
- 問題のスクリーン・スナップショット (可能な場合)

サポート・センタで必要となるこの情報を記録するためのチェックリストがこのリリース・ノートに掲載されています。

『システム管理ガイド： 第 1 巻』の「トラブルシューティングのヒント」>「サポート・センタへの問題の報告」>「getiqinfo を使った診断情報の収集」を参照してください。

チェックリスト： サポート・センタに提出する情報

getiqinfo スクリプトを実行すると、この情報の大部分を収集できます。

要求される情報	値
Sybase IQ のバージョン (15.4 GA や ESD 番号など)	
sp_iqlmconfig の出力	
ハードウェアの種類	
メモリ容量	
CPU の数	
オペレーティング・システム名とバージョン (Microsoft Windows 2008 Service Pack 1 など)	
オペレーティング・システムのパッチ・レベル	
使用しているフロントエンド・ツール (Business Objects Crystal Reports など)	
使用している接続プロトコル (ODBC、JDBC、TDS など)	
Open Client のバージョン	
設定タイプ (シングル・ノードかマルチプレックスか)	
メッセージ・ログ・ファイル (`dbname.iqmsg`)	
サーバ・ログ・ファイル (`server.nnnn.srvlog` と `server.nnnn.stderr`)	

要求される情報	値
スタック・トレース・ファイル (`stktrc-YYYYMMDD-HHNNSS_#.iq`)	
エラーが発生したコマンドまたはクエリ	
起動オプション設定	
接続オプション設定	
データベース・オプション設定	
データベースのスキーマとインデックス	
sp_iqstatus の出力	
クエリ・プラン：オプション (Query_Plan、Query_Detail、Query_Plan_After_Run、Query_Plan_As_Html、Query_Plan_As_Html_Directory、Query_Timing) を設定し、コマンドまたはクエリを再実行	
問題のスクリーン・スナップショット (可能な場合)	

Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

EBF と Maintenance レポートは、Sybase Web サイトからダウンロードしてください。

1. Web ブラウザで http://www.sybase.com/support を指定します。
2. メニュー・バーまたはスライド式メニューの [Support (サポート)] で [EBFs/Maintenance (EBF/メンテナンス)] を選択します。
3. ユーザ名とパスワードの入力が 求められたら、MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
4. (オプション) [Display (表示)] ドロップダウン・リストからフィルタを指定し、期間を指定して、[Go (実行)] をクリックします。
5. 製品を選択します。

   鍵のアイコンは、「Authorized Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースを ダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、 Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、 [My Account (マイ・アカウント)] をクリックして、「Technical Support Contact」役割を MySybase プロファイルに追加します。
6. EBF/Maintenance レポートを表示するには [[Info]] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。

Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、http://www.sybase.com/detail_list?id=9784 にアクセスします。
- プラットフォームの動作確認については、http://certification.sybase.com/ucr/search.do にアクセスします。

MySybase プロファイルの作成

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用にカスタマイズできます。

1. http://www.sybase.com/mysybase を開きます。
2. [今すぐ登録] をクリックします。

Sybase IQ ニュース・グループ

Sybase IQ ニュース・グループ sybase.public.iq を利用すると、ユーザはインターネット上で情報を交換できます。

Sybase ニュース・グループへのサブスクライブ、ニュースリーダまたは Web ブラウザの設定、公開のガイドラインについては、http://www.sybase.com/support/newsgroups を参照してください。

Sybase IQ ユーザのグループ

Sybase IQ ユーザのグループでは、ユーザが Sybase IQ に関する情報を交換できます。

http://iqug.dssolutions.com/ にある IQUG ホームページを参照できます。IQ ユーザのグループ・リストに名前を追加するには、iqug-subscribe@dssolutions.com に電子メールを送ります。

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

注意： アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれません。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、次の Sybase Accessibility サイトを参照してください。(http://www.sybase.com/products/accessibility)このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。